

---

# BIM/CIM モデル等電子納品要領（案）

## 及び同解説

令和3年3月

国土交通省

---

---

## はじめに

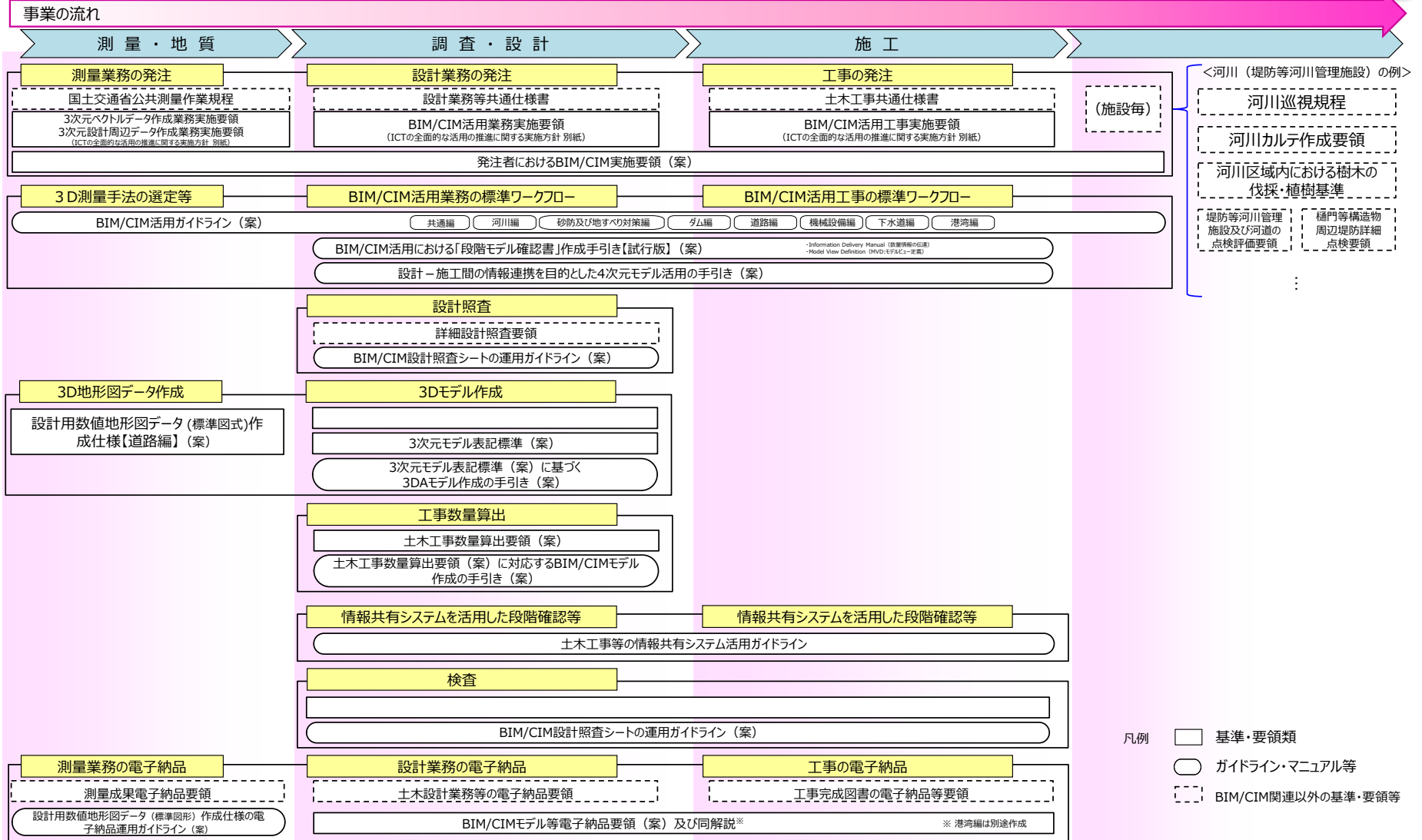
国土交通省では、平成30年5月から従来の「CIM (Construction Information Modeling/ Management)」という名称を「BIM/CIM (Building / Construction Information Modeling, Management)」に変更している。これは、海外では「BIM」は建設分野全体の3次元化を意味し、土木分野での利用は「BIM for infrastructure」と呼ばれて、BIMの一部として認知されていることから、建築分野の「BIM」、土木分野の「CIM」といった従来の概念を改め、国際標準化等の動向に呼応し、地形や構造物等の3次元化全体を「BIM/CIM」として名称を整理した。これを受け、「CIM 事業における成果品作成の手引き (令和元年5月)」を全面的に見直し、新たに「BIM/CIM モデル等電子納品要領 (案) 及び同解説 (以降、本要領という。)」を策定したものである。

本要領の位置づけ (BIM/CIM に関する基準・要領等の整備状況とその関係) は次ページ以降に示すとおりである。


### 【改定履歴】

名称	年月	備考
BIM/CIM モデル等電子納品要領 (案) 及び同解説 令和2年3月	令和2年3月	制定
BIM/CIM モデル等電子納品要領 (案) 及び同解説 令和3年3月	令和3年3月	一部改定

# ◇各段階の事業実施において適用又は参照する基準・要領等



## ◇ BIM/CIM仕様・機能要件

ソフトウェア関係		
	LandXML1.2に準じた3次元設計データ交換ソフトウェア確認要件（案）	
	土木IFC対応ソフトウェア確認要件（案）	
オブジェクト関係	データ交換を目的としたパラメトリックモデルの考え方（素案）	
情報共有システム機能要件	業務履行中における受発注者間の情報共有システム機能要件	工事施工中における受発注者間の情報共有システム機能要件

- 凡例
- 基準・要領類
  - ガイドライン・マニュアル等
  - BIM/CIM関連以外の基準・要領等

本要領の位置づけ（BIM/CIMに関する基準・要領等の整備状況とその関係）

---

## 目次

1. 適用.....	1
1.1 目的.....	1
1.2 用語の定義.....	4
1.3 成果品の作成範囲.....	6
2. フォルダ構成.....	8
2.1 DOCUMENT (BIM/CIM 実施計画書 等) .....	10
2.2 BIMCIM_MODEL (BIM/CIM モデル) .....	11
2.2.1 LANDSCAPING (地形モデル) .....	15
2.2.2 GEOLOGICAL (地質・土質モデル) .....	17
2.2.3 ALIGNMENT_GEOMETRY (土工形状モデル及び線形モデル) .....	19
2.2.4 STRUCTURAL_MODEL (構造物モデル) .....	21
2.3 INTEGRATED_MODEL (統合モデル) .....	23
2.4 MODEL_IMAGE (動画等) .....	24
2.5 REQUIREMENT (特別な検討のために作成した BIM/CIM モデル) .....	25
3. ファイル形式.....	26
4. 電子成果品 .....	27
5. その他留意事項 .....	28
5.1 対応ソフトウェアの情報.....	28
5.2 成果品の照査.....	29
付属資料 1 BIM/CIM モデル照査時チェックシート .....	付 1-1

# 1. 適用

「BIM/CIM モデル等電子納品要領（案）」（以下、「本要領」という。）は、『工事完成図書の電子納品等要領』「3 フォルダ構成」及び『土木設計業務等の電子納品要領』「2 フォルダ構成」に規定する「ICON」フォルダに格納する i-Construction に関連する電子成果品のうち、BIM/CIM 活用業務又は BIM/CIM 活用工事における BIM/CIM モデル等を電子成果品として納品する場合等における電子データの仕様を定めたものである。

## 【解説】

### 1.1 目的

BIM/CIM (Building / Construction Information Modeling , Management) は、測量・調査、設計・施工、維持管理・更新の各段階において、情報を充実させながら BIM/CIM モデルを連携・発展させ、併せて事業全体にわたる関係者間の情報共有を容易にすることで、一連の建設生産・管理システムの効率化・高度化を図ることを目的としている。

本要領は、BIM/CIM 活用業務及び BIM/CIM 活用工事を対象に、提出する成果品の作成方法やその確認方法を定めたものである。

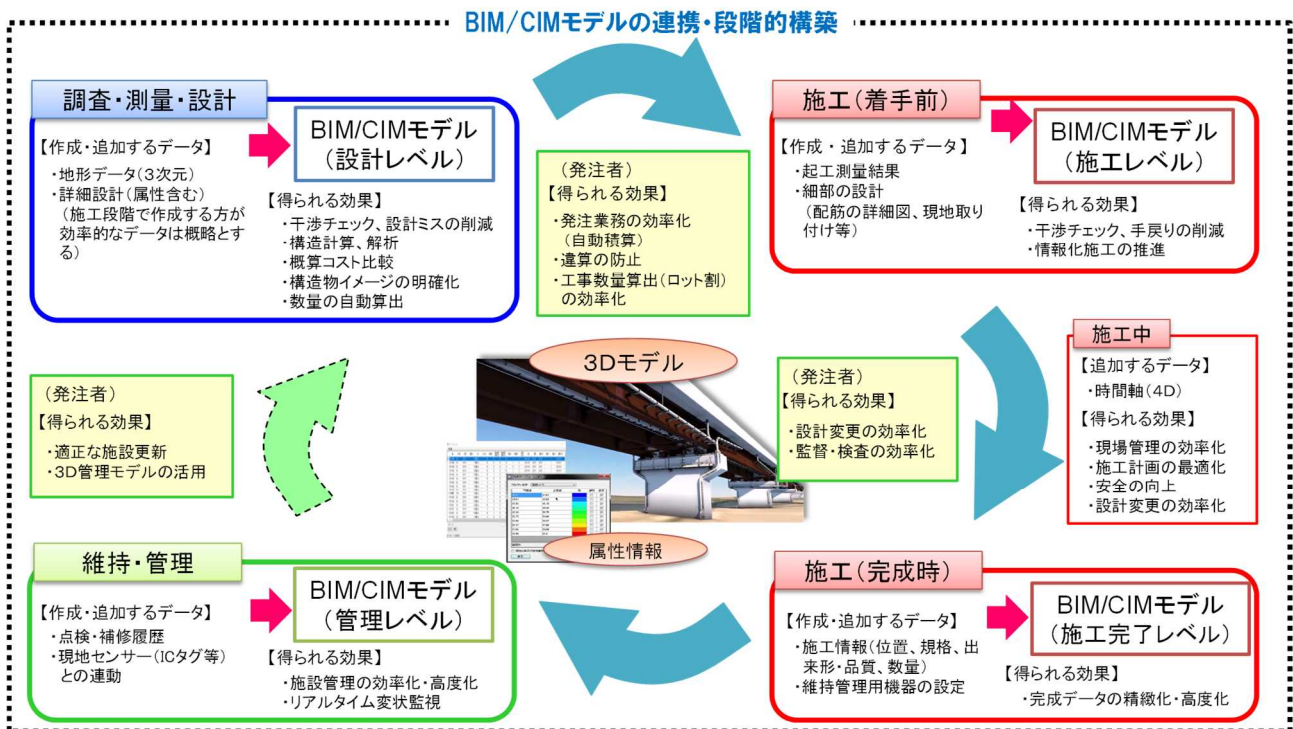


図 1-1 BIM/CIM の概念

本要領は、BIM/CIM 活用業務及び BIM/CIM 活用工事を対象に、当該業務又は工事において提出する BIM/CIM に関連する成果品に適用する。

### (1) 「土木設計業務等の電子納品要領」(国土交通省)

国土交通省が発注する土木工事に係る設計及び計画業務に係る土木設計業務委託契約書及び設計図書に定める成果品を電子的手段により提出する際の基準を定めている。

電子納品要領のフォルダ構成における位置関係は、『図 1-2 土木設計業務等の電子成果品のフォルダ構成での BIM/CIM データフォルダの位置関係』のとおり。なお、この図は複数枚に渡る電子媒体を電子納品として統合した場合の最終構成である。

BIM/CIM 活用業務の成果品は、「土木設計業務等の電子納品要領」(国土交通省)のフォルダ構成における「ルート」直下に「ICON」フォルダを作成、さらに「ICON」フォルダの下に「BIMCIM」フォルダを作成し、格納する。



図 1-2 土木設計業務等の電子成果品のフォルダ構成での BIM/CIM データフォルダの位置関係

## (2) 「工事完成図書の電子納品等要領」(国土交通省)

「工事完成図書の電子納品等要領」(国土交通省)は、土木工事共通仕様書に規定する工事完成図書を電子成果品として納品する場合等における電子データの仕様を定めている。

電子納品要領のフォルダ構成における位置関係は、『図 1-3 工事完成図書の電子成果品のフォルダ構成での BIM/CIM データフォルダの位置関係』のとおり。なお、この図は複数枚に渡る電子媒体を電子納品として統合した場合の最終構成である。

BIM/CIM 活用工事の成果品は、「工事完成図書の電子納品等要領」(国土交通省)のフォルダ構成における「ルート」直下に「ICON」フォルダを作成、さらに「ICON」フォルダの下に「BIMCIM」フォルダを作成し、格納する。

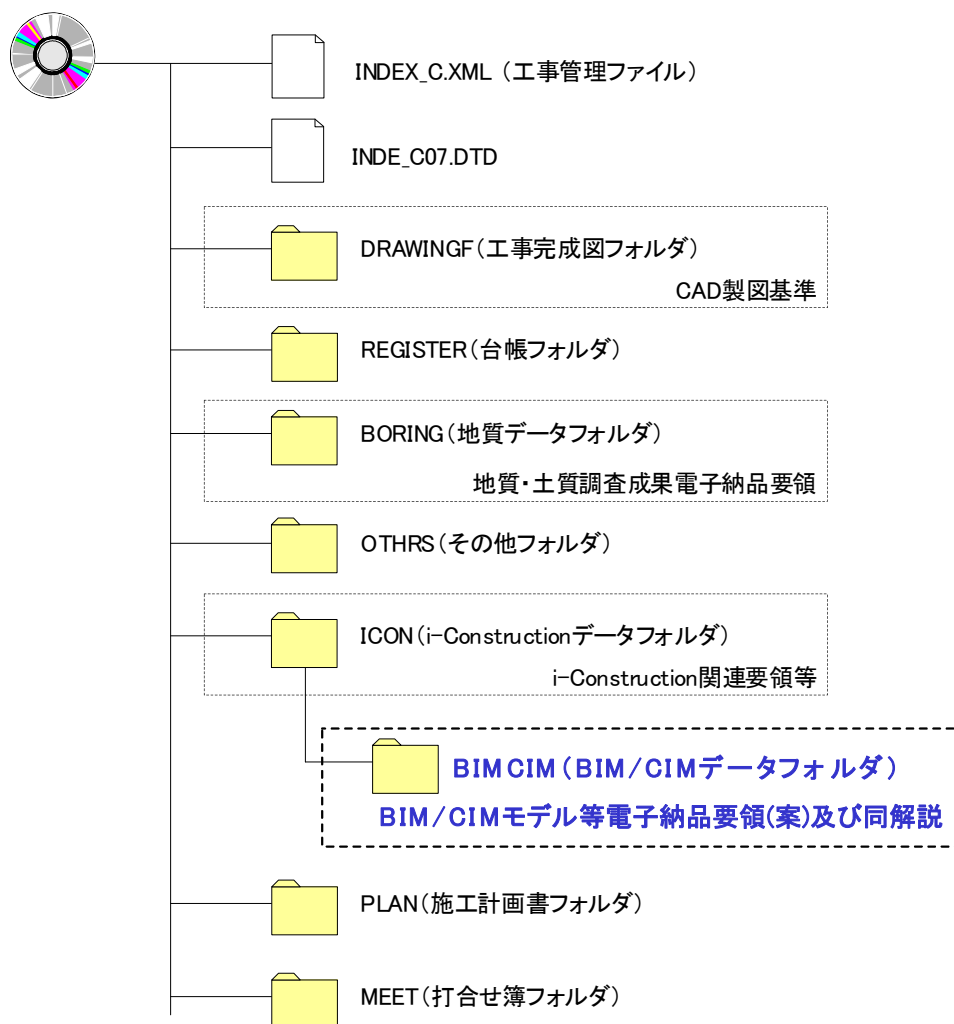


図 1-3 工事完成図書の電子成果品のフォルダ構成での BIM/CIM データフォルダの位置関係



## 1.2 用語の定義

本要領で用いる用語の定義を以下に示す。

表 1-1 用語定義

No	用語	定義
1	3次元モデル	<p>対象とする構造物等の形状を3次元で立体的に表現した情報を指す。</p> <p>各種の形状を3次元で表現するためのモデリング手法には、ワイヤーフレーム<sup>※1</sup>、サーフェス<sup>※2</sup>、ソリッド等がある。一般的に、構造物には、体積が求められるソリッド、地形には、TIN (Triangulated Irregular Network) が利用されている。</p> <p>※1 ワイヤーフレーム：物体を線分のみによって表現する手法である。ただし、物体の表面や中身の情報を持たないことから、干渉チェックや数量算出等ができないため、BIM/CIM では通常、用いられない。</p> <p>※2 サーフェス：物体の表面のみを表現する手法であり、TIN、メッシュ等で表現される。</p>
2	BIM/CIM (Building / Construction Information Modeling ,Management)	<p>測量・調査、設計段階から3次元モデルを導入し、その後の施工、検査、維持管理・更新の各段階においても3次元モデルを連携・発展させ、併せて事業全体にわたる関係者間の情報共有を容易にし、一連の建設生産・管理システムの効率化・高度化を図るものである。</p>
3	BIM/CIM モデル	<p>BIM/CIM モデルとは、対象とする構造物等の形状を3次元で表現した「3次元モデル」と「属性情報」「参照資料」を組合せたものを指す。</p> <p>地形モデル、構造物モデル、統合モデル等のBIM/CIMモデルの分類は「2.2 BIMCIM_MODEL (BIM/CIM モデル)」及び「2.3 INTEGRATED_MODEL (統合モデル)」を参照。</p>
4	属性情報	<p>3次元モデルに付与する部材(部品)の情報(部材等の名称、形状、寸法、物性及び物性値(強度等)、数量、そのほか付与が可能な情報)を指す。</p>
5	参照資料	<p>BIM/CIM モデルを補足する(又は、3次元モデルを作成しない構造物等)従来の2次元図面等の「機械判読できない資料」を指す。</p>
6	ICT	<p>ICT (Information and Communication Technology) は、情報通信技術を意味し、パソコン、インターネット等の技術を総称している。</p>
7	IFC	<p>IFC (Industry Foundation Classes) は、buildingSMART International が策定した3次元モデルデータ形式である。2013年にはISO 16739:2013として、国際標準として承認されている。2018年に改訂され、ISO 16739:2018が最新である。当初は、建築分野でのデータ交換を対象にしていたが、2013年にはbSI内にInfrastructure Roomが設置され、土木分野を対象にした検討が進められている。</p> <p>bSIの日本支部組織がbSJである。</p>
8	LandXML	<p>LandXMLは土地造成、土木工事、測量のデータ交換のためのオープンなフォーマットで、2000年に米国で官民から成るコンソーシアムLandXML.orgにより開発運営が開始された。</p> <p>国内事業に適用するため、国土交通省国土技術政策総合研究所が、「LandXML1.2に準じた3次元設計データ交換標準(案)」を策定している。日本国内で「LandXML」又は「LandXML1.2」という場合には、同交換標準案に準じたフォーマットを指す場合が多い。</p>

No	用語	定義
9	J-LandXML	<p>国土交通省の道路事業、河川事業の設計及び工事において、BIM/CIM や i-Construction<sup>※3</sup> で必要となる交換すべき 3 次元設計データを LandXML に準拠した形式で表記することとし、その内容及びデータ形式を定めたものである。オリジナルの LandXML に対して一部拡張を行っている。(LandXML1.2 に準じた 3 次元設計データ交換標準(案) Ver.1.4 (略称: J-LandXML) 国土交通省国土技術政策総合研究所より一部引用)</p> <p>※3 i-Construction とは、建設現場、すなわち調査・測量、設計・施工、検査、維持管理・更新までのあらゆる建設生産プロセスにおいて、抜本的に生産性を向上させる取組であり、建設生産システム全体の生産性向上の取組である。</p> <p>出典 「i-Construction ～建設現場の生産性革命～」 (i-Construction 委員会)</p>
10	TIN (Triangulated Irregular Network)	1 つの面を 3 角形で表現する手法である。3 角形の形状が決まっていなため、不整 3 角網 (Triangulated Irregular Network) と呼ぶ。
11	オリジナルファイル	オリジナルファイルとは、「CAD、ワープロ、表計算ソフト等の各ソフトウェア固有のデータ形式にて作成されたファイル、及び紙原本からスキャニングによって作成された電子データ等」を指す。
12	数値標高モデル (DEM:Digital Elevation Model)	<p>数値標高モデルは、地表面を等間隔の正方形に区切り、それぞれの正方形に中心点の標高値を持たせて表現したモデルである。ビットマップ画像や TIN によって地形をデジタル表現する手法である。</p> <p>建物等の地表上にある構造物・樹木等(地物)の高さを含む数値表層モデル DSM (Digital Surface Model) から、地物の高さを取り除いて、地表面の高さだけにしたものである。</p>
13	ソリッド	サーフェスが物体の表面のみを表現しているのに対して、ソリッドは物体の表面と中身を表現する手法である。
14	テクスチャ	3 次元コンピュータグラフィックスで、3 次元のオブジェクトの表面に表示される模様。
15	土木モデルビュー定義	土木モデルビュー定義とは、IFC のデータを異なるソフト間で読み書きできるようにするための技術文書である。2017 年 3 月 31 日に bSJ が公開しており、対象は IFC2x3 による土工、河川、地形、地盤以外の土木構造物の BIM/CIM モデルの形状の交換である。主にベンダーがこの技術文書を用いて、IFC をソフトに実装するために参照する。ユーザは同定義へのソフトの対応状況を参考に、ソフトを選定・利用することができる。

### 1.3 成果品の作成範囲

受発注者協議により作成する BIM/CIM モデル等を決定する。

BIM/CIM モデルは、3次元モデルと属性情報、参照資料の組合せにより構造物等の形状や諸元を示すものである。BIM/CIM 活用業務及び BIM/CIM 活用工事では、3次元モデル等により可視化を行い設計意図の伝達、合意形成や図面間の不整合を低減することを目指している。

ここでは、発注者と受注者が混乱することなく BIM/CIM 活用業務及び BIM/CIM 活用工事を履行できるように、BIM/CIM モデル等の成果品の作成範囲を次に示す。

- ① BIM/CIM モデル照査時チェックシート、BIM/CIM モデル作成 事前協議・引継書シート、BIM/CIM 実施計画書、BIM/CIM 実施（変更）計画書、BIM/CIM 実施報告書等
- ② BIM/CIM モデル：構造物や地形等の各 BIM/CIM モデル
- ③ 統合モデル：各 BIM/CIM モデルを統合したモデル
- ④ 動画等：イメージ画像や動画等のファイル
- ⑤ リクワイヤメント（要求事項）として特別な検討のために作成した BIM/CIM モデル

上記の①は、BIM/CIM 活用業務及び BIM/CIM 活用工事において納品すべき文書等である。

上記の②、③、④は、BIM/CIM 活用業務にあつては測量・調査・設計の最終結果に基づいて作成した BIM/CIM モデル、BIM/CIM 活用工事にあつては完成時の対象構造物等の BIM/CIM モデル（以下「**成果物モデル**」という。）である。

上記の⑤は、リクワイヤメントとして特別な検討のために作成した BIM/CIM モデル（設計－施工間の連携を目的とした 4次元モデル、過密配筋の照査箇所の 3次元モデル等）（以下「**要求事項モデル**」という。）である。

表 1-2 成果物モデルと要求事項モデルの違い

BIM/CIM モデル	BIM/CIM モデル作成に係る基準要領等		
	BIM/CIM 活用業務		BIM/CIM 活用工事
	詳細設計	詳細設計以外	
成果物 モデル	・ 3次元モデル成果物作成要領 (案)	・ BIM/CIM 活用ガイドライン(案) を参考に設定	・ BIM/CIM 活用ガイドライン (案) を参考に設定
要求事項 モデル	・ BIM/CIM モデルの作成方法、 ファイル形式等は規定しない	・ BIM/CIM モデルの作成方法、 ファイル形式等は規定しない	・ BIM/CIM モデルの作成方法、 ファイル形式等は規定しない

また、BIM/CIM 活用業務及び BIM/CIM 活用工事における各フォルダの BIM/CIM モデル成果品等の構成例を表 1-3 に示す。なお、BIM/CIM モデル成果品等の納品の有無については、活用目的に応じてその都度、受発注者間協議により定めるものとする。

表 1-3 BIM/CIM 活用業務及び BIM/CIM 活用工事の BIM/CIM モデル成果品等の納品例

●成果物モデル(BIM/CIM活用業務にあつては測量・調査・設計の最終結果に基づいて作成したBIM/CIMモデル、BIM/CIM活用工事にあつては完成時の対象構造物等のBIM/CIMモデル)								
BIM/CIMモデル (BIMCIM_MODEL)		調査		設計		工事	格納ファイル形式	成果品の内容
		測量	地質	予備	詳細			
地形モデル (LANDSCAPING)	地形モデル	◎: 必須	○:条件 付必要*1	△: 任意*2	◎: 必須	◎: 必須	J-LandXMLおよび オリジナルファイル	測量成果の3次元地形モデル (実測1/200~1/2,500)
	広域の地形モデル			△: 任意*3	△: 任意*3	△: 任意*3	J-LandXMLおよび オリジナルファイル	数値地図(国土基盤情報) (1/25,000~1/50,000)
地質・土質モデル (GEOLOGICAL)	ボーリングモデル	○:条件 付必要	◎: 必須	○:条件 付必要*4	○:条件 付必要*4	○:条件 付必要*4	オリジナルファイル	ボーリングモデル
	その他のモデル		△: 任意*5	△: 任意*5	△: 任意*5	△: 任意*5	オリジナルファイル	準3次元断面図やサーフェスモデル等の3次元 地盤モデル
土工形状モデル (ALIGNMENT _GEOMETRY)	土工形状モデル			○:条件 付必要*7	○:条件 付必要*7	○:条件 付必要*7	J-LandXMLおよび オリジナルファイル	土工部の設計土工横断形状(盛土・切土)を 繋いだ3次元モデル
	線形モデル	○:条件 付必要*6	△: 任意	○:条件 付必要*6	○:条件 付必要*6	○:条件 付必要*6	J-LandXMLおよび オリジナルファイル	道路線形、河川線形、構造物線形
構造物モデル (STRUCTURAL_MODEL)		○:条件 付必要*8	○:条件 付必要*8	◎: 必須	◎: 必須	◎: 必須	IFC2X3および オリジナルファイル	設計・施工の対象構造物の3次元モデル
統合モデル (INTEGRATED_MODEL)		○:条件 付必要*9	○:条件 付必要*9	◎: 必須	◎: 必須	◎: 必須	オリジナルファイル	各種ツールで作成したBIM/CIMモデルに含ま れる3次元モデルを統合し軽快に動作するこ とができる3次元モデル。
●要求事項モデル(リクワイヤメントとして特別な検討のために作成したBIM/CIMモデル)								
要求事項モデル (REQUIREMENT)		○:条件 付必要*10	○:条件 付必要*10	○:条件 付必要*10	○:条件 付必要*10	○:条件 付必要*10	オリジナルファイル、 その他形式(適宜)	・成果物モデルが要求事項モデルを含有して いる場合(たとえば構造物モデルに鉄筋モデ ルを含めて配筋の照査を行う等)、成果物モデ ルのフォルダにのみ納品すれば良く、同じもの を要求事項モデルのフォルダに納品する必要 はない。ただしこの場合、その旨のメモを DOCUMENTに保存しておく。  ・特別な検討のために作成した関連資料

◎:「必須」とは成果物として対象のモデルを必ず納品すべきもの。

○:「条件付必須」とは工種によっては必須ではないが、データを作成した場合は納品すべきもの。

△:「任意」とは必ずしも対象の3次元モデルを作成するとは限らないが、納品した方がよいもの。

\*1:設計段階によって3次元地形データがない可能性があるが、極力納品すべきもの。場合によっては広域の地形モデル(数値地図)で代用を図る。

\*2:設計段階によって3次元地形データがない可能性があるが、広域の地形モデル(数値地図等)で代用を図る。

\*3:協議等で必要な場合に納品する。ただし、地形モデルがなくて広域の地形モデルを活用する場合には納品が必要。なお、J-LandXMLでは、建物等の表現はできない。

\*4:作成に使用したボーリング柱状図等の元データを「GEOLOGICAL」配下の「SOURCE」フォルダに納品する。

\*5:対象段階で作成した場合に地質・土質モデルを納品する。作成に使用したボーリング柱状図等の元データを「GEOLOGICAL」配下の「SOURCE」フォルダに納品する。

\*6:土工に係る構造物は必ず納品が必要。その他工種についても極力納品することが望ましい。

\*7:土工に係る構造物は必ず納品が必要。その他工種は土工が接続する場合には納品することが望ましい。

\*8:対象位置を確認するためには詳細度が低くても納品した方がよい。

\*9:詳細設計・工事段階では統合モデルにすることが求められる。

\*10:リクワイヤメントとして特別な検討のために作成したBIM/CIMモデル(設計-施工間の連携を目的とした4次元モデル、過密配筋の照査箇所等の3次元モデル等)がある場合に納品する。

## 2. フォルダ構成

BIM/CIM モデル等に関連する電子成果品は、次に示すフォルダ構成とする。

ルート直下に置く「ICON」フォルダの下に「BIMCIM」フォルダを置く。なお、当面の間「BIMCIM」フォルダ内のいずれのフォルダにおいても管理ファイルは格納しない。

「BIMCIM」フォルダの下に「DOCUMENT」、「BIMCIM\_MODEL」、「INTEGRATED\_MODEL」、「MODEL\_IMAGE」「REQUIREMENT」のフォルダを置く。「BIMCIM\_MODEL」フォルダの下に「LANDSCAPING」、「GEOLOGICAL」、「ALIGNMENT\_GEOMETRY」、「STRUCURAL\_MODEL」のフォルダを置く。格納する電子データファイルがないフォルダは作成しなくてもよい。また、各フォルダの下位にサブフォルダを作成してもよい。

各フォルダに格納するファイルは、次の通りとする。

- 「DOCUMENT」フォルダには、「BIM/CIM 実施計画書」等の電子データファイルを格納する。
- 「BIMCIM\_MODEL」フォルダには、BIM/CIM モデルに関連する電子データファイルを格納する。「LANDSCAPING」フォルダには、広域地形モデルを含む地形モデルを格納する。「GEOLOGICAL」フォルダには、地質・土質モデルを格納する。「ALIGNMENT\_GEOMETRY」フォルダには、土工形状モデル及び線形モデルを格納する。「STRUCURAL\_MODEL」フォルダには、構造物モデルを格納する。
- 「INTEGRATED\_MODEL」フォルダには、統合モデルを格納する。
- 「MODEL\_IMAGE」フォルダには、BIM/CIM モデルを活用して作成した動画等の電子データファイルを格納する。
- 「REQUIREMENT」フォルダには、リクワイヤメントとして特別な検討のために作成した BIM/CIM モデル（設計－施工間の連携を目的とした 4 次元モデル、過密配筋の照査箇所の 3 次元モデル等）及び関連資料の電子データファイルを格納する。

フォルダ作成上の留意事項は次の通りとする。

- 使用するソフトウェアの制限等により仕分けができない場合は、いずれかのフォルダにまとめて格納、フォルダの追加を認める。
- フォルダ名は半角英数字とする。

### 【解説】

BIM/CIM 活用業務又は BIM/CIM 活用工事における BIM/CIM 成果品の構成を示す。

- フォルダ構成ならびにフォルダ名は、下図を原則とする。
- 格納するファイルがないフォルダは、作成する必要はない。
- 各フォルダにはサブフォルダを設けてよい。
- 使用するソフトウェアの制限等により仕分けができない場合は、いずれかのフォルダにまとめて格納、フォルダの追加を認める。
- フォルダ名は半角英数字とする。図 2-1 では、各フォルダに格納する内容を右側に参考表記している。
- 格納するパスの長さ（フォルダ名＋ファイル名の長さ）は、OS の表示制限等より 255 字まで※とする。

※作業上の注意：使用するソフトウェアによっては、自動的に 100 文字を超えるパス長のファイルが保存される場合があるので、納品前の BIM/CIM モデル作成作業中であっても、パソコンや共有サーバに保存する際は、フォルダの浅い階層に置く等の注意が必要となる。

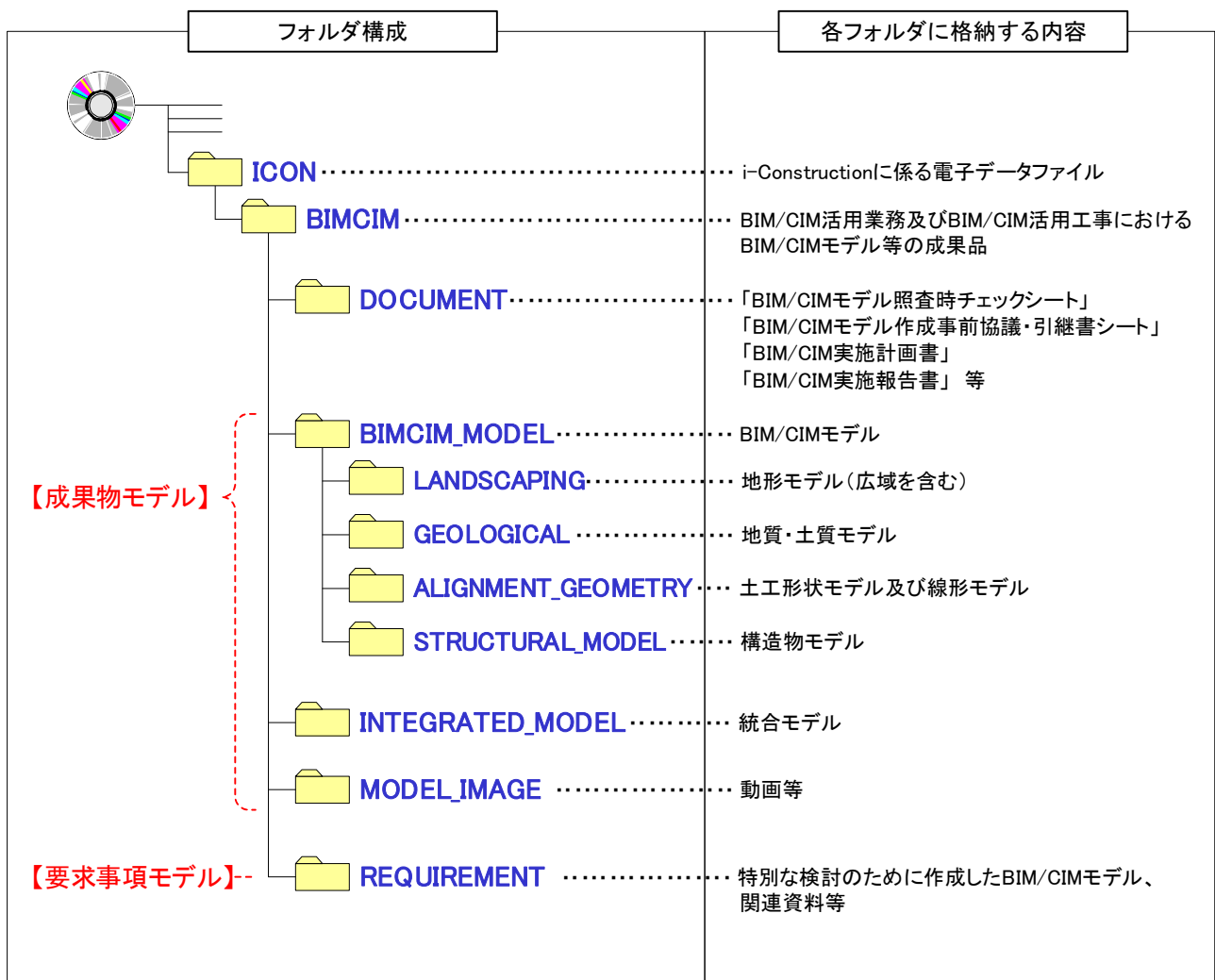


図 2-1 BIM/CIM 活用業務及び BIM/CIM 活用工事における成果品のフォルダ構成

## 2.1 DOCUMENT (BIM/CIM 実施計画書 等)

「BIM/CIM 実施計画書」や受発注者協議により決定した「BIM/CIM モデル作成 事前協議・引継書シート」、「BIM/CIM 設計照査シート」等は、「DOCUMENT (BIM/CIM 実施計画書 等)」のフォルダに格納する。

なお、「BIM/CIM モデル照査時チェックシート」を確認した際に用いたチェック入りの設計図等（線形計算書、平面図、構造一般図等）を含む。

表 2-1 フォルダ構成 (例)

フォルダ	サブフォルダ	格納される成果品
DOCUMENT		<p>以下のファイルを格納する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li> <p>・ <b>BIM/CIM モデル作成 事前協議・引継書シート</b>            ファイル形式：XLS、XLSX            命名規則：PRICON.XXX</p> </li> <li> <p>・ <b>BIM/CIM 実施計画書</b>            ファイル形式：PDF            命名規則：BIMCIMPLA00_mm.PDF</p> </li> <li> <p>・ <b>BIM/CIM 実施 (変更) 計画書【CIM 実施計画が変更になった場合のみ】</b>            ファイル形式：PDF            命名規則：BIMCIMPLAnn_mm.PDF</p> </li> <li> <p>・ <b>BIM/CIM 実施報告書</b>            ファイル形式：PDF            命名規則：BIMCIMREP_mm.PDF</p> </li> <li> <p>・ <b>BIM/CIM モデル照査時チェックシート</b>            ファイル形式：PDF            命名規則：CHECK.PDF (固定)            確認した際に用いた設計図等については、ファイル形式、命名規則を定めない。</p> </li> <li> <p>・ <b>その他 BIM/CIM モデル作成に関する書類</b></p> </li> </ul> <p>XXX.：固有の拡張子。4文字可。            mm：ファイルの番号。01～99の連番とする。            nn：変更回数。01～99の連番とする。</p>

---

## 2.2 BIMCIM\_MODEL (BIM/CIM モデル)

受発注者協議により決定した BIM/CIM モデルは、「BIMCIM\_MODEL」フォルダに格納する。格納する BIM/CIM モデルは「地形モデル」「地質・土質モデル」「線形モデル」「土工形状モデル」「構造物モデル」の 5 種類に大別し、それぞれに対応するフォルダに格納する。

作成する 3次元モデルに使用する測地系は世界測地系(測地成果 2011)、投影法は平面直角座標系、基準水準面を T.P.を標準とする。構造物の設計で、mm (ミリメートル) の精度が求められる場合は、作成する構造物モデルも mm (ミリメートル) の精度で作成する。これはモデル作成時の単位を mm (ミリメートル) に限定するものではなく、単位を m (メートル) として、小数点以下第 3 位の精度でモデルを作成してもよいことを示している。

ただし、世界測地系で使用する単位は m (メートル) を規定していることから、構造物モデルを地形モデル(現況地形)や地質・土質モデルに重ね合わせる際に m (メートル) 単位で座標を合わせる必要がある。

なお、作成に使用するソフトウェアによって、作成するモデルが 4 種類 (LANDSCAPING、GEOLOGICAL、ALIGNMENT\_GEOMETRY 及び STRUCTURAL\_MODEL) のフォルダの単位に振り分けられない場合は、4 種類のフォルダの中から、格納先フォルダを決定するものとし、その旨を「BIM/CIM モデル作成 事前協議・引継書シート」に記載すること。

例) 地形モデルと土工形状モデルが分離して格納できない場合に、地形モデルフォルダに格納する。等

各フォルダには、発注者が BIM/CIM モデルのデータを操作できる環境にない場合でも確認することができるよう、必要に応じて確認用ファイル又はビューアを格納すること。格納するファイル形式やビューア等の選定にあたっては、発注者と協議の上、決定すること。



ICT 土工等の対象となる設計業務の線形モデルや土工形状モデルは「BIMCIM\_MODEL」フォルダの下の「ALIGNMENT\_GEOMETRY」に格納するとともに、「ICON」フォルダの下の「LANDXML」フォルダにも格納する。それ以外の業務においては、図 2-1 に示すフォルダ構成のとおり格納する。

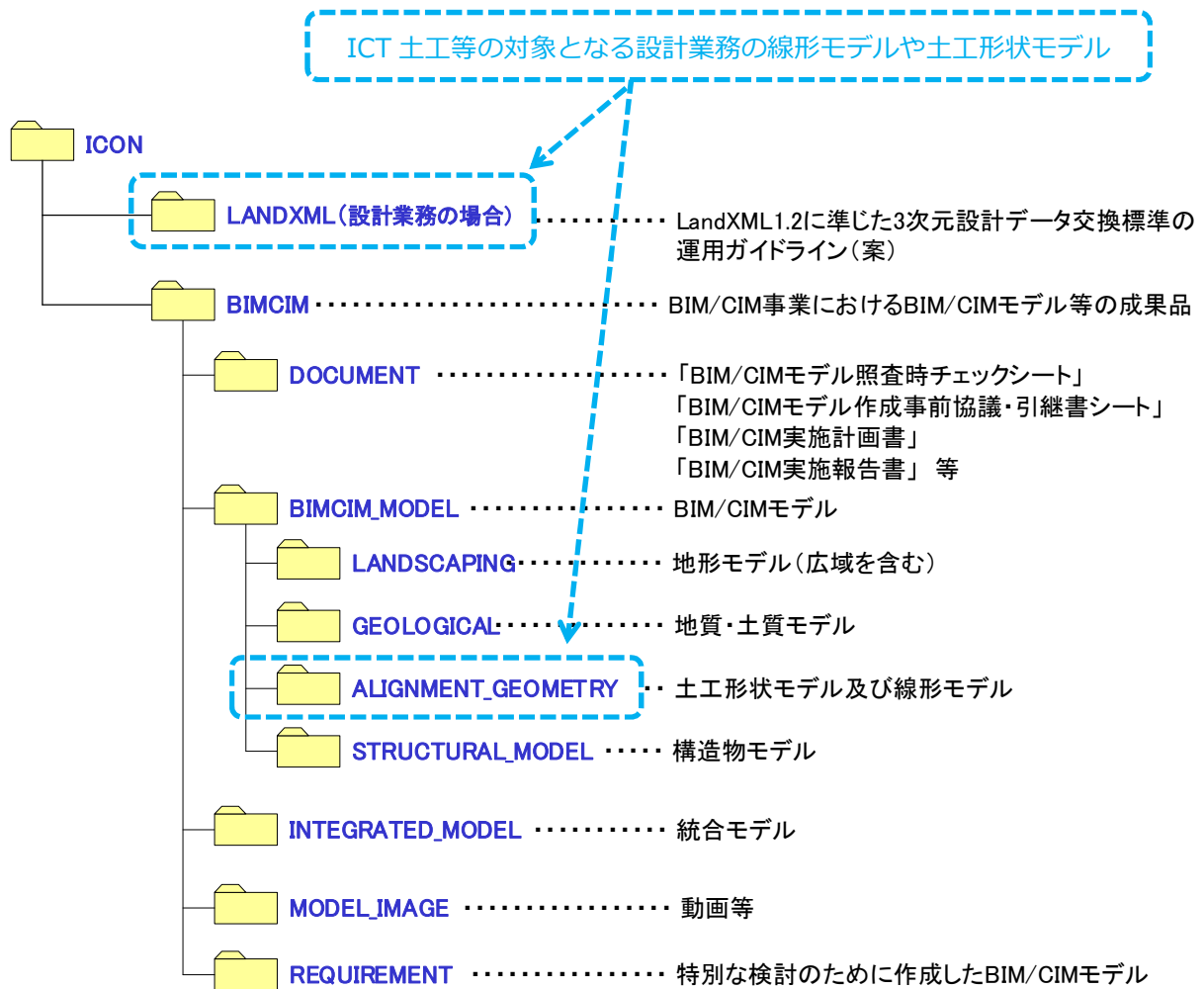


図 2-2 業務（設計業務の場合）における ICT 土工等のフォルダ構成（例）

また、ICT 土工等の対象となる工事の線形モデルや土工形状モデルは「BIMCIM\_MODEL」フォルダの下に「ALIGNMENT\_GEOMETRY」に格納するとともに、「ICTの全面的活用」を実施する上での技術基準類（3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）等）で規定するフォルダにも格納する。それ以外の工事においては、図 2-1 に示すフォルダ構成のとおり格納する。

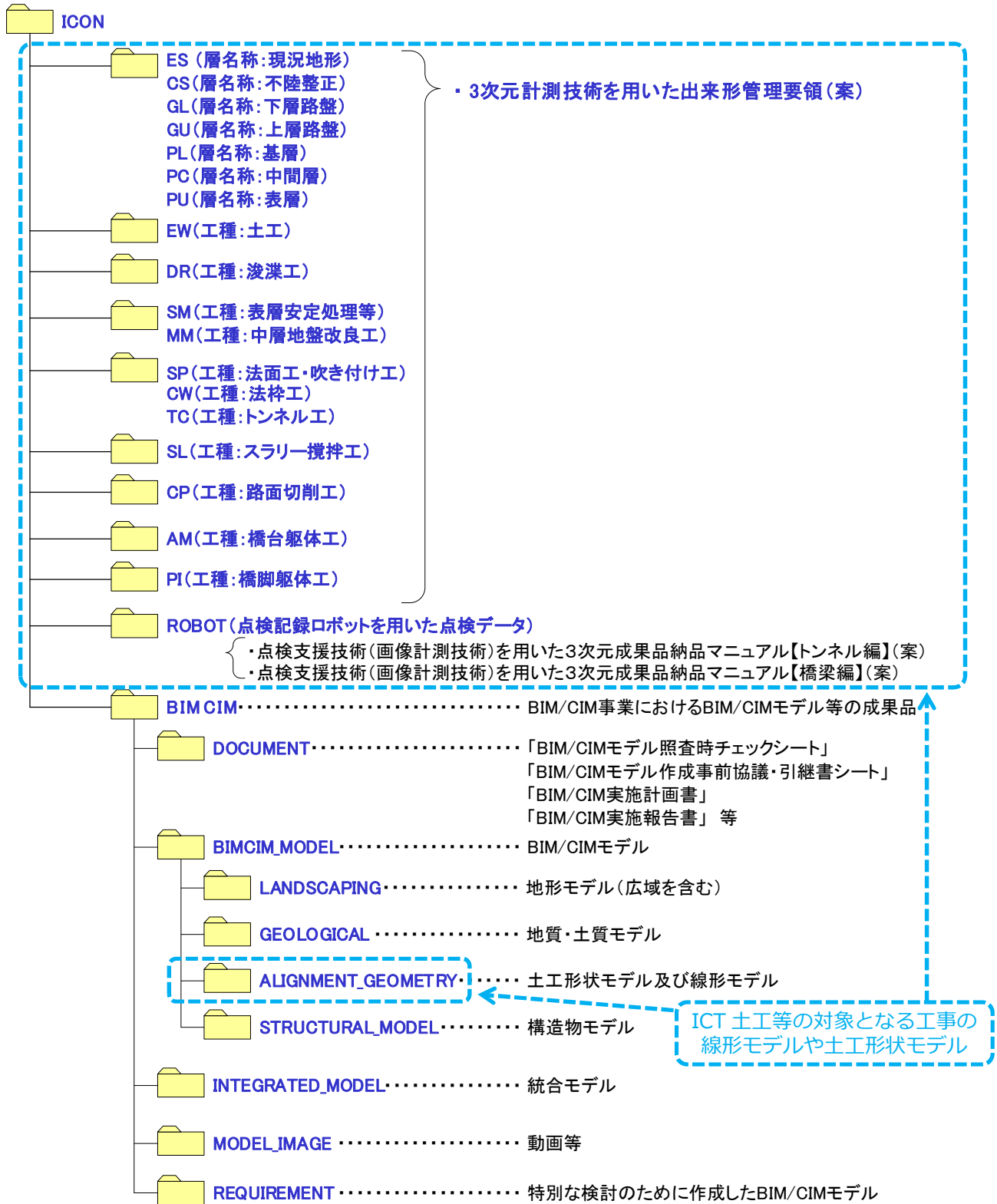


図 2-3 工事における ICT 土工等のフォルダ構成 (例)

※格納するファイル形式又はビューア等

発注者が 3 次元モデルを確認できる代表的な方法を以下に示す。

・ 3D PDF

3D 情報を含んだ PDF ファイルである。PDF 内で 3 次元モデルの回転、移動等が可能である。PDF 内に取り込める 3D データ形式は、U3D (Universal 3D) 又は PRC (Product Representation Compact) である。他の形式の 3D データは、U3D 又は PRC いずれかの形式に変換後、PDF 内に取り込む。なお、3D PDF を閲覧するには、3D に対応した PDF リーダ (Acrobat Reader 等) で閲覧できる。なお、地形等を含む大きなデータの場合、動きが遅くなることに留意する。

・ イメージ画像

3 次元モデルを必要な方向や位置で表示した画面をキャプチャするなどし、画像ファイルとしてファイルに保存する。必要な方向や位置は、発注者と協議の上、決定する。

・ 3 次元モデルビューア

3 次元モデルを閲覧できるビューア (システム) を格納する。納品された 3 次元モデルを操作し、閲覧や情報取得することができる。なお、3 次元モデルビューアは、インストール等が必要な場合があるため、利用可能か発注者と十分な協議が必要である。

<BIM/CIM モデルのデータファイル名について>

「BIMCIM\_MODEL」フォルダに格納する BIM/CIM モデル (特に構造物モデル) のデータファイル名は、当該 BIM/CIM モデルが何を表現しているか発注者や後工程の受注者が分かるように、受発注者協議により設定することを推奨する。

---

## 2.2.1 LANDSCAPING（地形モデル）

成果物モデルのうち地形モデル（広域を含む）は、「LANDSCAPING」フォルダに格納する。  
一般的に現況地形モデルの作成は、数値地図（国土基本情報）や実際の測量成果等を基に、数値標高モデルとして TIN（Triangulated Irregular Network）やテクスチャ画像等を用いて表現される。テクスチャ画像として、航空写真や測量成果を基に作成したオルソ画像が存在する場合がある。

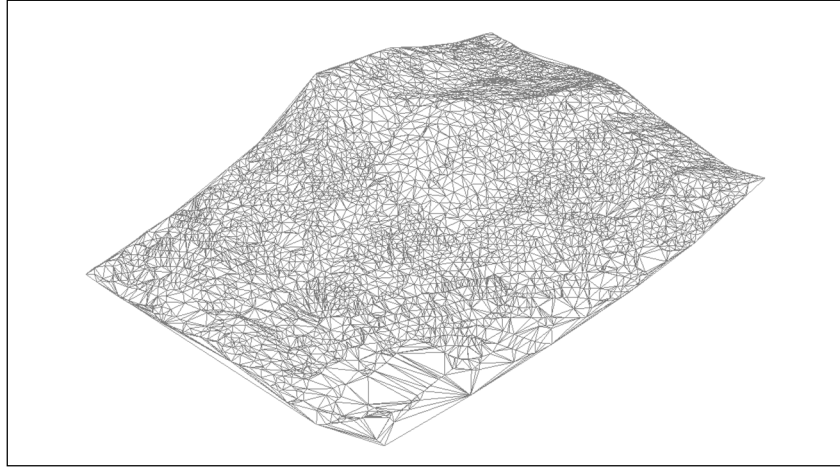


図 2-4 地形モデルの例

また、広域の地形モデルは、数値地図（国土基本情報）等の対象地区を含む広域な範囲の地形モデル、建屋等の 3 次元モデルである。地表面は TIN（Triangulated Irregular Network）等を用いて表現される。テクスチャ画像として、航空写真や測量成果を基に作成したオルソ画像が存在する場合がある。



図 2-5 広域の地形モデルの例

表 2-2 フォルダ構成（例：地形モデル）

フォルダ	サブフォルダ 1	サブフォルダ 2	サブフォルダ 3	格納される成果品	
LANDSCAPING	PROJECT_AREA			・地形モデル (J-LandXML*及びオリジナルファイル)	
		SOURCE		地形モデルを格納する過程で作成するオリジナルファイルや、数値地図（国土基本情報）等外部から取得したオリジナルファイル 例) ・国土基本情報の XML や SHP ファイル ・点番号、点名、X 座標、Y 座標、Z 座標等のデータにより構成され、拡張子 CSV、SIMA、XYZ、PTS、TXT 等のファイル（測量成果）	
		TEXTURE		・テクスチャファイル（TIF、JPG 等）	
		VIEW		・確認用ファイル又はビューア	
		WIDE_AREA			・広域の地形モデル (J-LandXML*及びオリジナルファイル)
		SOURCE		地形モデルを格納する過程で作成するオリジナルファイルや、数値地図（国土基本情報）等外部から取得したオリジナルファイル 例) ・国土基本情報の XML や SHP ファイル	
		TEXTURE		・テクスチャファイル（TIF、JPG 等）	
		BUILDING		・建屋の 3 次元モデル	
			SOURCE	・国土基本情報 SHP ファイル等	
		VIEW		・確認用ファイル又はビューア	

\* 「LandXML1.2 に準じた 3 次元設計データ交換標準（案） Ver.1.4（略称：J-LandXML）」（国土交通省国土技術政策総合研究所）

## 2.2.2 GEOLOGICAL (地質・土質モデル)

成果物モデルのうち地質・土質モデルは、「GEOLOGICAL」フォルダに格納する。

地質・土質モデルは、地質ボーリング柱状図、表層地質図、地質断面図等の地質・土質調査の成果を、3次元空間にCADデータとして配置したものである。

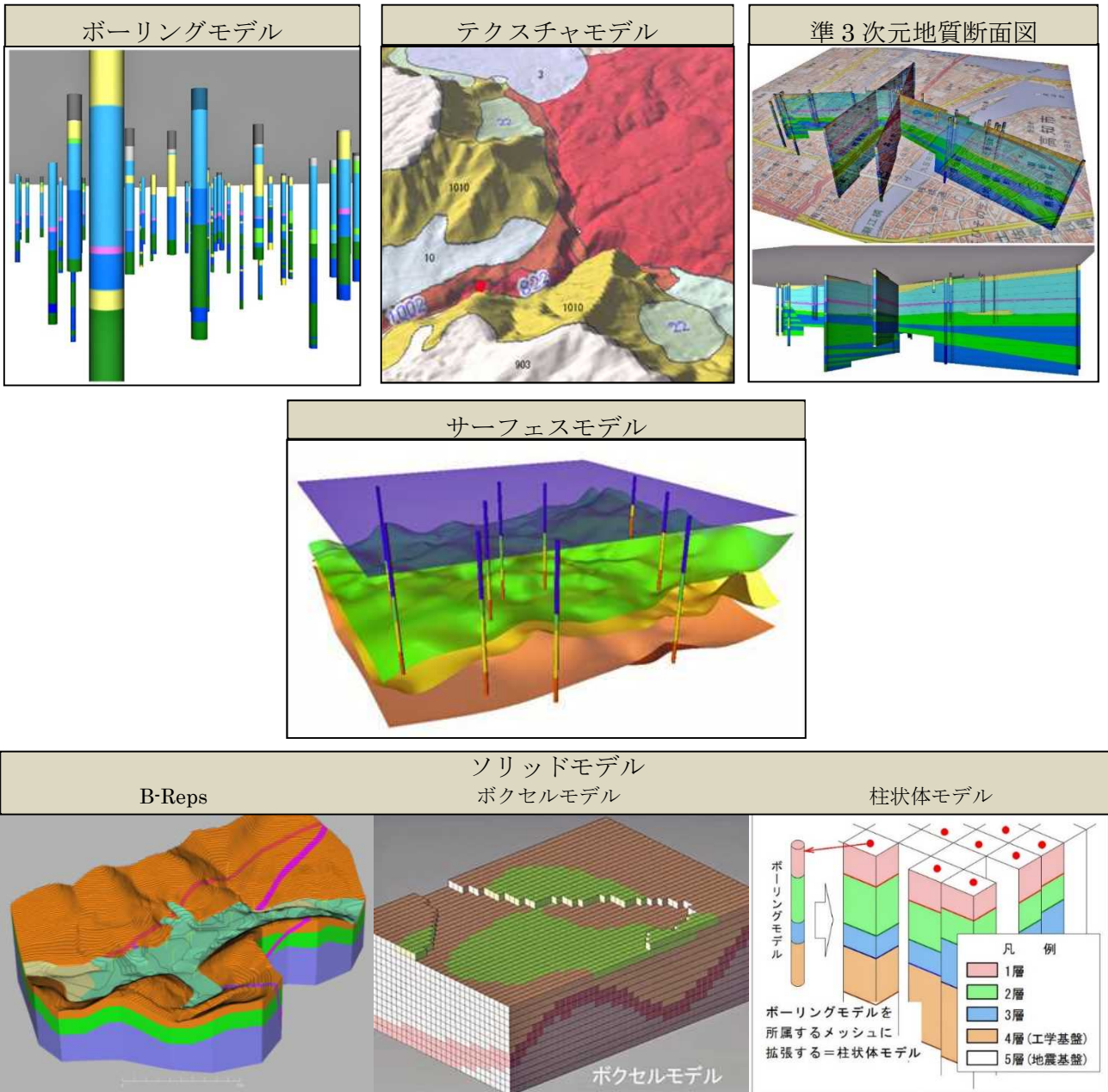


図 2-6 地質・土質モデルの例



表 2-3 モデルの種類

種類		概要
ボーリングモデル		<p>地質・土質調査業務で作成されたボーリング柱状図や柱状図から層序等を抽出し、孔口の座標値、掘進角度、方位から 3 次元的位置に配置し、必要な属性情報を抽出することにより作成するモデルのことである。</p> <p>本要領では、ボーリングモデルのうち、以下の調査結果モデルと推定解釈モデルに区分するものとする。</p>
	調査結果モデル	<p>地質・土質調査業務の調査結果であるボーリング柱状図（ボーリング交換用データ、又は、電子簡略柱状図）を、孔口の座標値・標高値、掘進角度、方位から 3 次元空間上に配置・表現したものである。</p>
	推定・解釈モデル	<p>既往資料を始め、地質・土質調査業務で作成されたボーリング柱状図や各種室内・原位置試験結果、及び 2 次元断面図等の情報を活用して地質・工学的解釈を加えて作成した柱状体モデルを、孔口の座標値・標高値、掘進角度、方位から 3 次元空間上に配置・表現したものである。</p>
準 3 次元地盤モデル		<p>従来からの地質・土質調査業務での 2 次元の成果としての地質平面図及び地質縦断面図等を、地形データ等とともに 3 次元空間に配置したモデル</p>
	テクスチャモデル（準 3 次元地質平面図）	<p>地形表面（地形データ）に、地質・土質調査業務で作成された 2 次元の成果である地質平面図、オルソ処理した空中写真等を貼り付けて作成するモデルのことである（テクスチャマッピング）。</p>
	準 3 次元地質断面図	<p>地質・土質調査業務で作成された地質断面図、速度層断面図や地山条件調査結果図等を基に作成する地形データ等を 3 次元空間に配置したモデルである。</p>
3 次元地盤モデル		<p>複数のボーリング柱状図等の地質調査結果を基に、様々な情報を地質学的な解釈を加えて総合的に表現したものである。</p> <p>各々のモデルは、異なる範囲・目的・用途・空間補間方法で地質学的な解釈を経て作成されており、単純に結合出来ないことを十分に理解した上で、モデルを再作成する。</p>
	サーフェスモデル	<p>地層などの境界面に地層・岩体区分などの属性を持つ面を貼り付けたモデルである。</p>
ソリッドモデル	B-Reps	<p>サーフェスモデルが地層、物性値等の境界面の上面のみを表現しているのに対して、上面・下面・側面の境界面とで挟まれた内部の地質情報などを付加した属性情報から構成されるモデルをソリッドモデルという。水平方向・深度方向に広範囲に亘る場合は、便宜上的に区切るための鉛直・深度等の境界面で区切られる。</p>
	ボクセルモデル	<p>モデル全体を小さな立方体（空間格子）の集合体として表現するものである。通常は、サーフェスモデル（地層などの境界面モデル）の形状と境界面間の属性情報を微小立方体に付与することにより作成する。</p>
	柱状体モデル	<p>サーフェスモデルなどの地層などの境界面モデルを真上から見て小さな格子（メッシュ）に区分し、メッシュ内の境界面間の属性情報と関連付けることにより作成されたモデルである。</p> <p>地震動予測の分野では「鉛直 1 次元地盤柱状体モデル」と呼ばれることがある。</p>

表 2-4 フォルダ構成 (例：地質)

フォルダ	サブフォルダ	格納される成果品
GEOLOGICAL		・地質・土質モデル (オリジナルファイル)
	VIEW	・確認用ファイル又はビューア
	SOURCE	・ボーリング柱状図やボーリング交換用データの XML ファイル等
	TEXTURE	・テクスチャファイル (TIF、JPG 等)
	ATTRIBUTE	・3次元モデルから外部参照される属性情報ファイルや参照資料ファイル (PDF、CSV 等)
	DOCUMENT	・管理情報等、地質・土質モデルに関する各種ファイル

### 2.2.3 ALIGNMENT\_GEOMETRY (土工形状モデル及び線形モデル)

成果物モデルのうち土工形状モデル及び線形モデルは、「ALIGNMENT\_GEOMETRY」フォルダに格納する。

線形モデルは、道路中心線や構造物中心線を表現する 3次元モデルである。

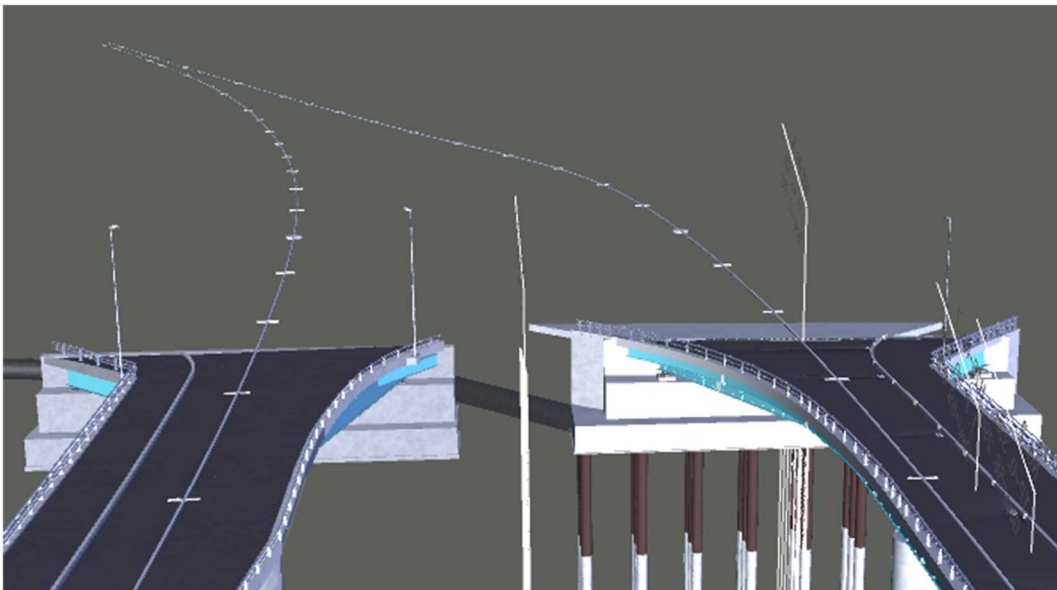


図 2-7 線形モデルの例



また、土工形状モデルは、盛土、切土等を表現したもので、サーフェスモデル等で作成する。

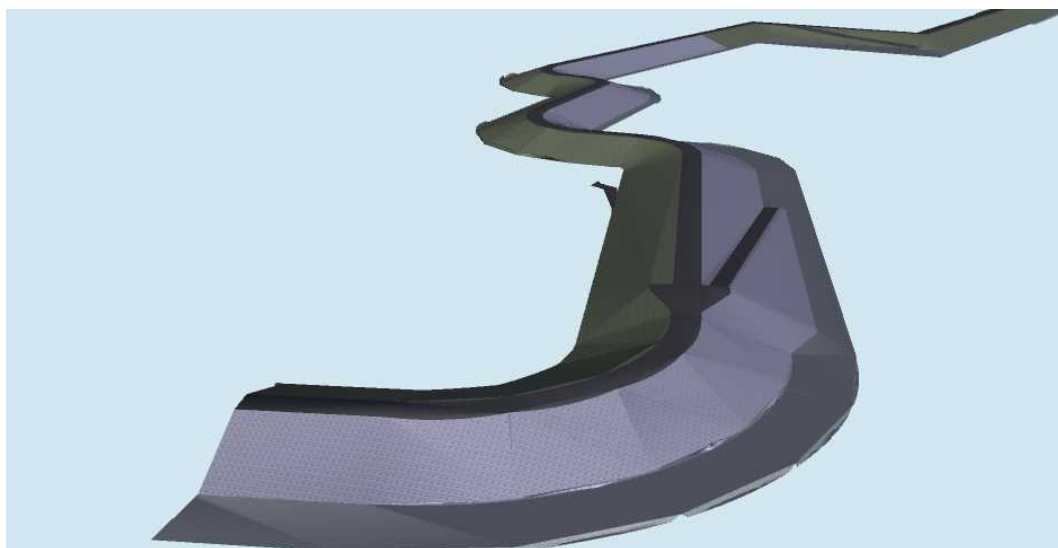


図 2-8 土工形状モデルの例

なお、J-LandXML では、線形モデルと土工形状モデルは、同じファイルに格納されているが、線形モデルと土工形状モデルを分割し 2つのファイルにする必要はない。

表 2-5 フォルダ構成（例：土工形状及び線形）

フォルダ	サブフォルダ	格納される成果品
ALIGNMENT_GEOMETRY		・ 土工形状モデル ・ 線形モデル (J-LandXML*及びオリジナルファイル)
	TEXTURE	・ (テクスチャファイル (TIF、JPG 等) )
	VIEW	・ 確認用ファイル又はビューア

\* 「LandXML1.2 に準じた 3 次元設計データ交換標準（案） Ver.1.4（略称：J-LandXML）」（国土交通省国土技術政策総合研究所）

## 2.2.4 STRUCTURAL\_MODEL（構造物モデル）

成果物モデルのうち構造物モデルは、「STRUCTURAL\_MODEL」フォルダに格納する。  
構造物モデルは構造物や仮設構造物の 3 次元モデルに属性情報や参照資料が付与されたものである。



図 2-9 構造物モデルの例

### (1) 3次元モデル

対象とする構造物等の形状を 3 次元で立体的に表現した情報を指す。

### (2) 属性情報

3 次元モデルに付与する部材（部品）の情報（部材等の名称、形状、寸法、物性及び物性値（強度等）、数量、そのほか付与が可能な情報）を指す。

### (3) 参照資料

BIM/CIM モデルを補足する（又は、3 次元モデルを作成しない構造物等）従来の 2 次元図面等の「機械判読できない資料」を指す。

なお、属性情報は、IFC の定義では厳密には 3 次元モデルに直接付与する情報に限られるが、基準・要領等の整備状況を鑑み、当面の間、構造物の部材の諸元や数量等の機械判読可能なデータを「外部参照のファイル」として参照（リンク）する場合を含むものとする。（「機械判読可能なデータ (Machine-readable Data)」：コンピュータで容易に処理できるデータ形式）

表 2-6 フォルダ構成 (例：橋梁)

フォルダ	サブ フォルダ 1	サブ フォルダ 2	格納される成果品
STRUCTURAL_MODEL	SUPERSTRUCTURE		・ 上部工の 3 次元モデル (IFC 2x3 <sup>※1</sup> 及びオリジナルファイル <sup>※2</sup> )
		VIEW	・ 確認用ファイル又はビューア
		TEXTURE	・ TIF、JPG 等のテクスチャファイル
		SOURCE	・ 外部より入手したファイル
		ATTRIBUTE	・ 3 次元モデルから外部参照される属性情報ファイルや参照資料ファイル (PDF、P21、CSV、XLSX 等)
	SUBSTRUCTURE		・ 下部工の 3 次元モデル (IFC 2x3 <sup>※1</sup> 及びオリジナルファイル <sup>※2</sup> )
		:	:
	OTHERS		・ 上部工/下部工に分類できない 3 次元モデル (IFC 2x3 <sup>※1</sup> 及びオリジナルファイル <sup>※2</sup> )
		:	:
		:	:

※1：buildingSMART JAPAN「土木モデルビュー定義」

各社ソフトウェアの対応状況については、「5.1 対応ソフトウェアの情報」を参照。

※2：3次元モデルに直接付与する属性情報を保存できるファイル形式が望ましい。

※3：構造物や工種に応じて『サブフォルダ 1』レベルでフォルダを適宜追加すること。

#### ＜属性情報及び参照資料を外部参照する場合の扱いについて＞

属性情報及び参照資料については、「3. ファイル形式」に示した＜IFC について＞を踏まえ「3次元モデルから外部参照する」場合は、外部参照先のファイルを格納する。

「BIM/CIM 活用ガイドライン(案)」(詳細設計業務にあつては「3次元モデル成果物作成要領(案)」)に基づき、設計や施工段階において、受注者が電子成果品等である図面、報告書、工事書類等を外部参照し属性情報や参照資料として付与する場合は、各々の成果品格納フォルダとは別に、BIM/CIM モデルの属性情報や参照資料として格納する。納品された BIM/CIM モデルが BIM/CIM フォルダ単独で次工程等で活用できるよう、BIM/CIM フォルダ外の他の成果品格納フォルダへの外部参照は行わず、フォルダ内に別途格納するものとする。(図 2-10 参照。)

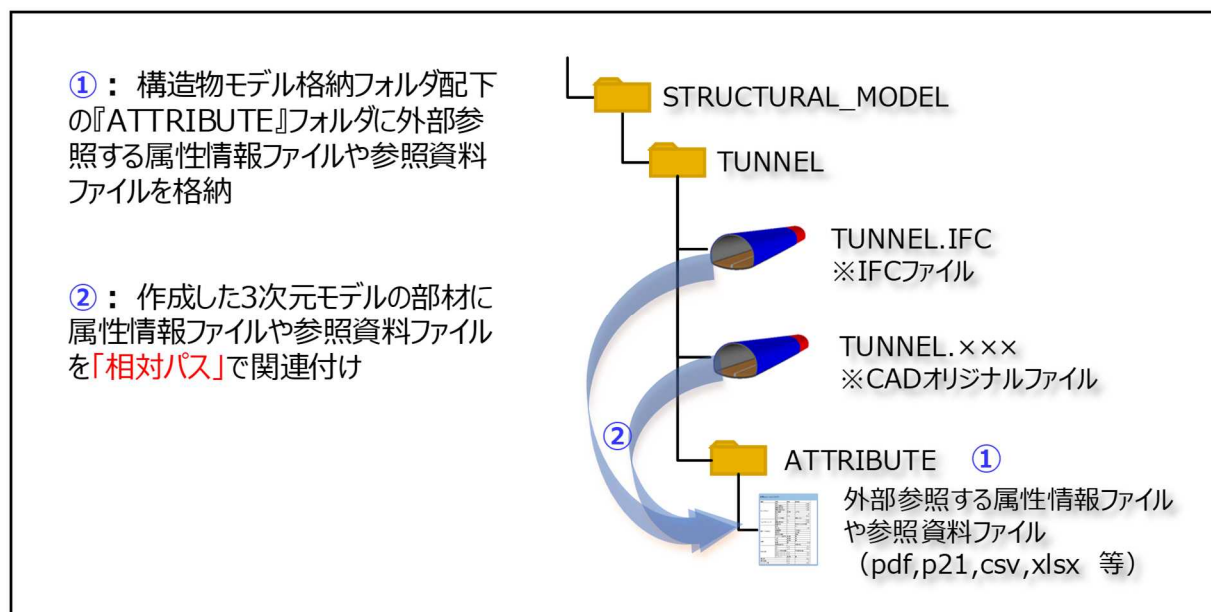


図 2-10 外部参照する属性情報・参照資料ファイルの格納フォルダ位置・関連付け方法

## 2.3 INTEGRATED\_MODEL（統合モデル）

成果物モデルのうち統合モデルは、「INTEGRATED\_MODEL」フォルダに格納する。

統合モデルは地形モデル、地質・土質モデル、線形モデル、土工形状モデル、構造物モデル等のBIM/CIMモデルを統合したモデルである。

なお、モデル作成に使用するソフトウェアに応じて、統合モデルとして必要なファイルを格納する。その際、統合モデルが参照している各種モデルや属性情報等のファイルのパス（関連付け）が正しく設定できているか確認する。

また、フォルダには、発注者がBIM/CIMモデルのデータを操作できる環境にない場合でも確認することができるよう、必要に応じて確認用ファイル又はビューアを格納すること。格納するファイル形式やビューア等の選定にあたっては、発注者と協議の上、決定すること。



図 2-11 統合モデルの例

表 2-7 フォルダ構成（例：統合モデル）

フォルダ	サブフォルダ	格納される成果品
INTEGRATED_MODEL		・ 統合モデル
	VIEW	・ 確認用ファイル又はビューア
	ATTRIBUTE	・ 統合モデルから外部参照される属性情報ファイルや参照資料ファイル (PDF、P21、CSV、XLSX 等)

---

## 2.4 MODEL\_IMAGE（動画等）

成果物モデルで作成した動画やスライド等の資料は、「MODEL\_IMAGE」フォルダに格納する。

また、BIM/CIM における成果は、ファイル容量が大きいため、圧縮ファイル（圧縮形式は受発注者協議により決定）として格納することも可能である。クラウドを利用したオンライン電子納品も可能とする。

表 2-8 フォルダ構成（例：動画等）

フォルダ	サブフォルダ	格納される成果品
MODEL_IMAGE		<ul style="list-style-type: none"><li>・動画ファイル</li><li>・イメージ画像</li><li>・解説資料ファイル（PDF 等）</li></ul>
	SOURCE	<ul style="list-style-type: none"><li>・動画ファイル等を作成する過程で作成するオリジナルファイル</li></ul>

## 2.5 REQUIREMENT（特別な検討のために作成した BIM/CIM モデル）

リクワイヤメントとして特別な検討のために作成した BIM/CIM モデル（設計－施工間の連携を目的とした 4 次元モデル、過密配筋の照査箇所の 3 次元モデル等）は、「REQUIREMENT」フォルダに格納する。BIM/CIM 活用業務及び BIM/CIM 活用工事におけるサブフォルダ 1 の名称の例を表 2-10 及び表 2-11 に示す。

表 2-9 フォルダ構成（例：特別な検討のために作成した BIM/CIM モデル）

フォルダ	サブ フォルダ 1	サブ フォルダ 2	格納される成果品
REQUIREMENT	XXXXXXXX (※1)		・特別な検討のために作成した BIM/CIM モデル (※2)
		VIEW	・確認用ファイル又はビューア
		ATTRIBUTE	・外部参照される属性情報ファイルや参照資料ファイル (PDF、P21、CSV、XLSX 等)
	DOCUMENT	・DOCUMENT フォルダにおける「その他 BIM/CIM モデル作成に関する書類」と同様	
	XXXXXXXX	:	:

※1: XXXXXXXX は、半角英数大文字で表記しリクワイヤメントの内容が判別できる名称とする

※2: 成果物モデルが要求事項モデルを含有している場合（たとえば構造物モデルに鉄筋モデルを含めて配筋の照査を行う等）、成果物モデルのフォルダにのみ納品すれば良く、同じものを要求事項モデルのフォルダに納品する必要はない。ただし、この場合はその旨のメモを DOCUMENT に保存しておく。

※3: リクワイヤメントの検討として作成した要求事項モデル (BIM/CIM モデル) 以外の統合モデルや動画、スライド等の資料も同フォルダに格納する。

表 2-10 BIM/CIM 活用業務におけるサブフォルダ 1 の名称（例）

サブフォルダ 1	格納される成果品
3D_KYOGI	関係者協議にて用いた 3 次元モデル
3D_SHOSA	設計照査（点検シミュレーションによる範囲・構造確認等）
3D_SURYO	数量算出のための 3 次元モデル
4D_SEKKEIITO	設計－施工間の情報連携（設計意図）のための 4 次元モデル

表 2-11 BIM/CIM 活用工事におけるサブフォルダ 1 の名称（例）

サブフォルダ 1	格納される成果品
3D_DEKIGATA	出来形管理記録の紐付け
3D_HINSITSU	品質管理記録の紐付け
3D_IJIKANNRI	維持管理を考慮した 3 次元モデル
3D_KYOGI	関係者協議にて用いた 3 次元モデル
4D_KEIKAKU	施工計画に用いた 4 次元モデル

### 3. ファイル形式

成果物モデルの電子成果品のファイル形式は、以下のとおりとする。

- 地形モデル、線形モデル、土工形状モデルのファイル形式は J-LandXML 形式及びオリジナルファイル形式とする。
- 構造物モデルは、IFC 形式及びオリジナルファイル形式とする。
- 地質・土質モデル及び統合モデルは、オリジナルファイル形式とする。

#### 【解説】

各 BIM/CIM モデルの納品ファイル形式を表 3-1 に示す。

オリジナルファイルでの納品を行い、国際標準の採用を念頭に置いて、現時点でソフトウェア製品が IFC (※1) 及び J-LandXML (※2) に対応しているモデルについては、同ファイル形式による納品を求める。なお、上記ファイル単独で完全なデータ交換や有効活用が行えない当面の間は、両ファイルの納品を求める。

表 3-1 各 BIM/CIM モデルの納品ファイル形式

BIM/CIM モデル	納品ファイル形式
地形モデル	J-LandXML <sup>※2</sup> 及びオリジナルファイル
地質・土質モデル	オリジナルファイル
線形モデル	J-LandXML <sup>※2</sup> 及びオリジナルファイル
土工形状モデル	J-LandXML <sup>※2</sup> 及びオリジナルファイル
構造物モデル	IFC 2x3 <sup>※1</sup> 及びオリジナルファイル
統合モデル	オリジナルファイル

※1：buildingSMART JAPAN「土木モデルビュー定義」

※2：国土交通省国土技術政策総合研究所「LandXML1.2 に準じた 3 次元設計データ交換標準（案）Ver.1.4（略称：J-LandXML）」

※3：異なるソフトウェア製品間でのデータ活用では、データが適切に変換されない場合もあり注意が必要なため、「BIM/CIM モデル作成 事前協議・引継書シート」に基づいて、作成ソフトウェアやその他の条件等を事前に確認しておくこと。

#### <IFC について>

平成 29 年度からの BIM/CIM 活用業務及び BIM/CIM 活用工事では、構造物モデルのデータ交換形式として（オリジナルファイルに加え）IFC を採用している。

当面、橋梁、トンネル等の土木構造物としてのクラス定義を含むデータ交換は行えないが、データの長期再現性や、政府調達（WTO・TBT 協定）を踏まえ、現時点でデータ交換可能な範囲で国際標準を採用していく。使用するソフトウェアの IFC 対応範囲や、IFC 入出力時の留意事項等について事前に確認しておくこと。

#### <地形モデルの納品ファイル形式について>

ソリッドモデルのように J-LandXML でのデータ保存が行えない形式で作成する場合は、IFC で納品する／オリジナルファイルのみ納品する、など使用するソフトウェア等の状況に応じて、受発注者協議において決定する。

#### <要求事項モデルのファイル形式について>

「REQUIREMENT」フォルダに格納する特別な検討のために作成した BIM/CIM モデル（要求事項モデル）のファイル形式は、オリジナルファイルを基本とし、その他の形式は受発注者間協議にて適宜決定する。

## 4. 電子成果品

電子成果品の情報は、次の条件を満たさなければならない。

- 1 情報の真正性が確保されていること。
- 2 情報の見読性が確保されていること。
- 3 情報の保存性が確保されていること。

### 【解説】

BIM/CIM 活用業務及び BIM/CIM 活用工事における成果は、「土木設計業務等の電子納品要領」及び「工事完成図書等の電子納品等要領」に本要領の記載事項を加えた構成で作成する。

納品媒体は、業務又は工事の電子納品要領に準拠し、真正性、見読性、保存性が確保でき、BIM/CIM モデルのデータ量を考慮した電子媒体とする（CD-R、DVD-R、BD-R）。BD-R については、表 4-1 に示す種類があり、機器が対応しているかなど受発注者間協議により決定する。

「ICON」フォルダについては、業務又は工事の電子納品要領に規定する電子成果品とは別に格納してよい。ただし、1 枚に収まらない場合、複数枚の電子媒体（全て同じ種類の電子媒体）に格納する。

また、情報共有システムを活用している場合は、オンライン電子納品の可否について検討する。

表 4-1 電子媒体の容量

電子媒体		容量 (GB)	備考
DVD-R		4.7GB	市販パソコンに広く普及しているドライブで読み込み、書込み可能
ブルーレイ	BD-R	25GB	ブルーレイドライブが必要
	BD-R DL (片面 2 層)	50GB	大容量を格納 BD-R DL が扱えるブルーレイドライブが必要
	BD-R XL (片面 3 層)	100GB	大容量を格納 BD-R XL が扱えるブルーレイドライブが必要

なお、BIM/CIM における成果は、ファイル容量が大きい場合、圧縮ファイル（圧縮形式は受発注者協議により決定）として格納することも可能である。

ただし、圧縮ファイルの作成は、ZIP 形式の場合、保管管理及びデータ流通の観点から以下の点に注意して作成する必要がある。

- パスの長さの制限（ファイル名ではありません）は、255 字（バイト）以下
- 圧縮前のファイル数の上限は、65,536 ファイル以下
- 圧縮前のファイルサイズは、4GB 以下
- 圧縮後のファイルサイズは、2GB 以下

他の圧縮形式の場合、それぞれの制限事項に注意すること。

納品媒体の種類については、継続的に電子納品の運用状況を把握し、必要な改善を図る。



---

## 5. その他留意事項

### 5.1 対応ソフトウェアの情報

「BIM/CIM活用ガイドライン(案)」(詳細設計業務にあつては「3次元モデル成果物作成要領(案)」)に対応したIFC及びJ-LandXMLに関するソフトウェアについては、ソフトウェア固有の対応範囲、留意事項があるため、それらについては、以下を参考に事前確認の上利用すること。

- (1) BIM/CIM活用ガイドライン対応ソフトウェア一覧／(一社)OCF  
<https://ocf.or.jp/cim/cimsoftlist/>
- (2) OCF認証ソフトウェア一覧(LandXML)／(一社)OCF  
[https://ocf.or.jp/kentei/land\\_soft/](https://ocf.or.jp/kentei/land_soft/)
- (3) 土木モデルビュー定義対応ソフトウェア一覧／(一社)buildingSMART Japan  
<https://www.building-smart.or.jp/ifc/passedsoft/>

---

## 5.2 成果品の照査

発注者と受注者は、納品する BIM/CIM モデルが適正な成果品となっているか照査、確認すること。具体的には、納品する BIM/CIM モデルに対して受注者側が以下の視点でチェックを行い、次ページに示す「BIM/CIM モデル照査時チェックシート」に記入の上、発注者の確認を受け、納品する。

なお、「BIM/CIM モデル照査時チェックシート」は基本的なチェック項目を示すものであり、BIM/CIM モデルの作成目的や検討内容に応じて適宜修正する。

- 1) 事前協議等で発注者と協議・決定した BIM/CIM モデル作成・活用目的、作成・更新の範囲、詳細度、ファイル形式で作成されているかについて、「別紙 BIM/CIM モデル作成 事前協議・引継書シート」に示される内容と照合してチェックする。
- 2) 作成した 3 次元モデルのねじれや離れ等の不整合がないかについて 3 次元モデルをビューアで開いて PC 上で目視確認する。
- 3) 「3 次元モデル成果物作成要領（案）」に基づく成果物の場合、3 次元モデル上にある 2 次元図面の切り出し平面について、設計成果物となる 2 次元図面と形状や寸法が整合していることを確認する。

業務・工事名： \_\_\_\_\_

受注会社名： \_\_\_\_\_

作成者： \_\_\_\_\_

BIM/CIM モデル照査時チェックシート

BIM/CIM モデルが正しく作成されていることを確認する場合

項目	内容	照査対象		照査結果
		有	無	
① 測地系、単位系	測地系・単位系は正しく設定されているか			
② 配置位置	構造物が正しい位置に配置されているか			
③ 作成意図	事前協議等で決定したモデルが作成できているか			
④ 詳細度	活用目的に応じた詳細度で作成されているか			
⑤ 属性情報	付与した属性情報の内容が正しいか確認したか			
⑥ 不整合	ねじれや離れ、重なり等のモデルの不整合がないか			
	モデルの更新範囲や必要な部材や周辺構造に抜けがないか			
	ソリッドがサーフェスに分解されていたり、面が閉じていなかったりしていないか			
⑦ 参照資料	外部参照資料のリンクが切れていないか確認したか			
⑧ データ変換	J-LandXML データに変換されたことを確認したか <sup>1)</sup>			
	IFC や J-LandXML データを正しく変換されたことをビューワで確認したか			

1) LandXML には、オリジナルの LandXML と、「LandXML1.2 に準じた 3 次元設計データ交換標準（案）」の LandXML（通称、J-LandXML という）の 2 種類がある。電子納品では、J-LandXML データでの納品としている。3 次元 CAD ソフトウェアによっては、オリジナルの LandXML データと J-LandXML データのどちらも出力が可能なソフトウェアもあるため、納品対象となる J-LandXML データに変換されたことを確認する。

3 次元モデル成果物作成要領に基づく確認を行う場合（上記の追加分として実施）

項目	内容	照査対象		照査結果
		有	無	
① 2Dと3Dの整合性	3 次元モデルに示した 2 次元図面の切り出し平面について、2 次元図面と整合していることを確認したか			
② 切り出し後の変更	3 次元モデルから切り出した 2 次元図面の形状を追加、変更した場合に、追加、変更内容を管理できているか			
③ 設計条件の明示	建築限界範囲、用地境界等の後工程に引き継ぐべき設計条件等について、3 次元モデル上に（色分け等により）視認可能な状態で明示しているか			

電子成果品が正しく作成されていることを確認する場合

項目	内容	照査対象		照査結果
		有	無	
① フォルダ構成	BIM/CIM モデル等電子納品要領（案）及び同解説に基づいて、フォルダが正しく作成されているか			
② 事前協議・引継ぎシート等	BIM/CIM モデル作成事前協議・引継ぎシート、BIM/CIM 実施計画書が格納されているか。ファイル名は、ファイル命名則に則っているか			
③ BIM/CIMモデル等	BIM/CIM モデル作成事前協議・引継ぎシートに記載されている3次元モデル成果物、BIM/CIM モデルの全てをフォルダに格納しているか			
④ IFC、J-LandXML	オリジナルデータの他、IFC や J-LandXML 等の標準的なデータ形式で納品する BIM/CIM モデルは、標準的なデータ形式も格納されているか			

- ※1 各チェック項目について照査対象の有無を確認し、照査対象が有る場合には『有』欄に“✓”を記入し、照査後に『照査結果』欄に“○”と記すこと。照査対象が無い場合は『無』欄に“✓”を記入する。
- ※2 本チェックシートに基づく照査を行った箇所を検査時に説明できるよう、あらかじめ整理しておくこと。また、必要に応じて関連する設計図等（線形計算書、平面図、構造一般図等）を合わせて提出すること。